

金融機関における
大学発ベンチャー支援

～ 創業支援から成長支援へ～

2005年6月25日

三井住友銀行 法人業務部

清水 浩徳

1. 金融機関の成長企業支援

- 1990年代 IT技術の進歩により新産業の勃興
 成長企業向け投融资の事業化

- 1999年 東証マザーズ発足
 新興市場向け公開支援の強化

- 2000年～ 中小企業向け融資強化
 金融グループによる公開支援へ

2. 大学発ベンチャーへの取組み

- 国立大学の法人化に伴い、大学と金融機関の関係が強化
新しいサービス、連携手法のご提案

大学発ベンチャー企業向け投融資のご提案

(専用ファンドの創設、出資)

人材交流(共同研究員派遣 等)

大学発ベンチャーファンドへの出資

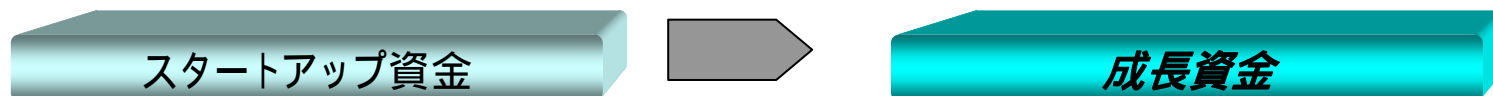
大学と金融機関の取引先のマッチング

3. 大学発ベンチャーの課題の変化

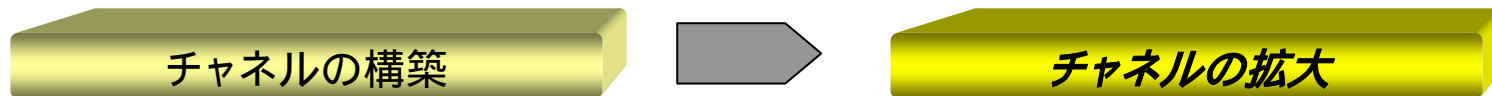
➤ 人材確保



➤ 資金調達

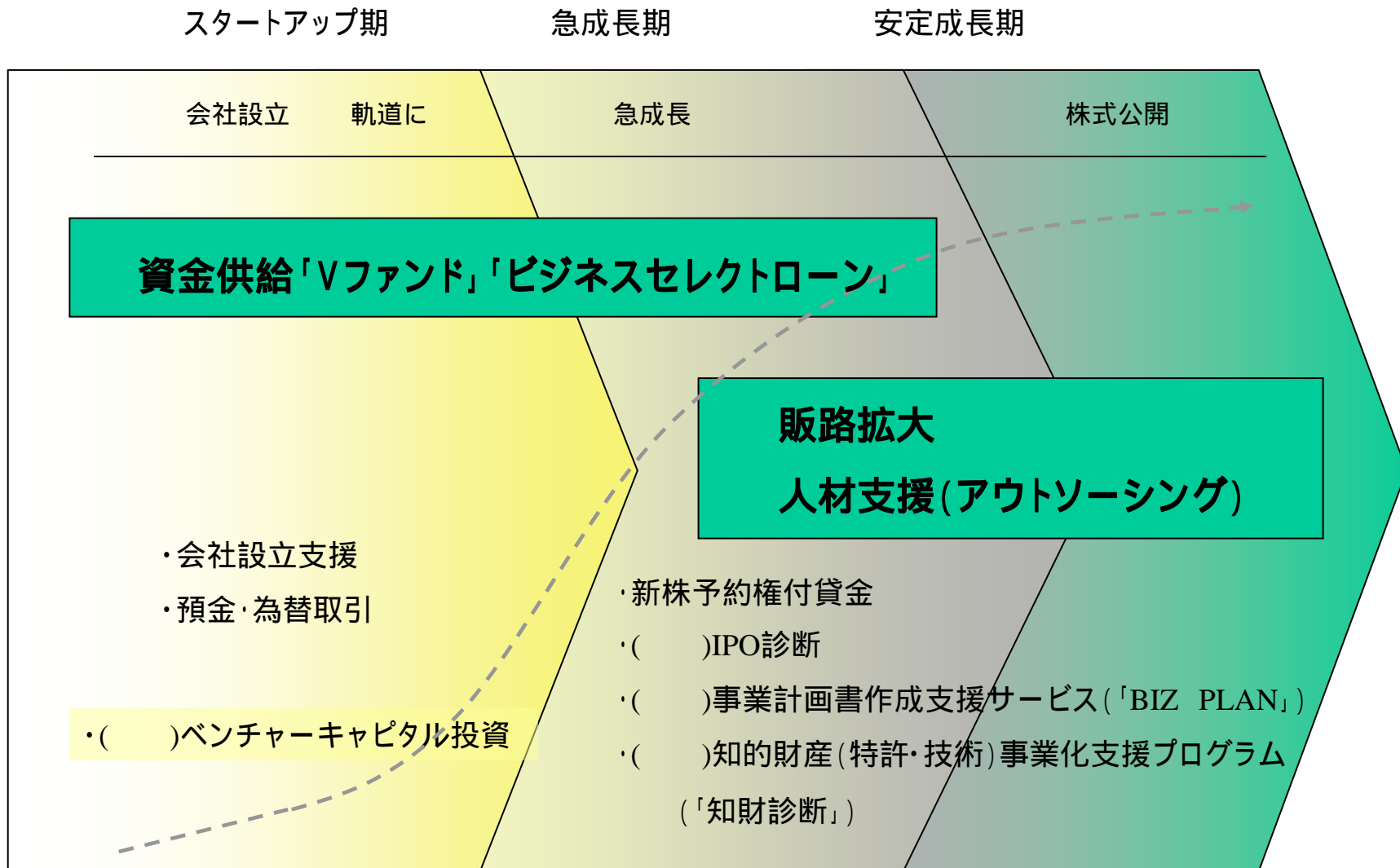


➤ 販路開拓



**「創業支援」から創業後の「成長支援」へ
大学発ベンチャーのニーズ多様化**

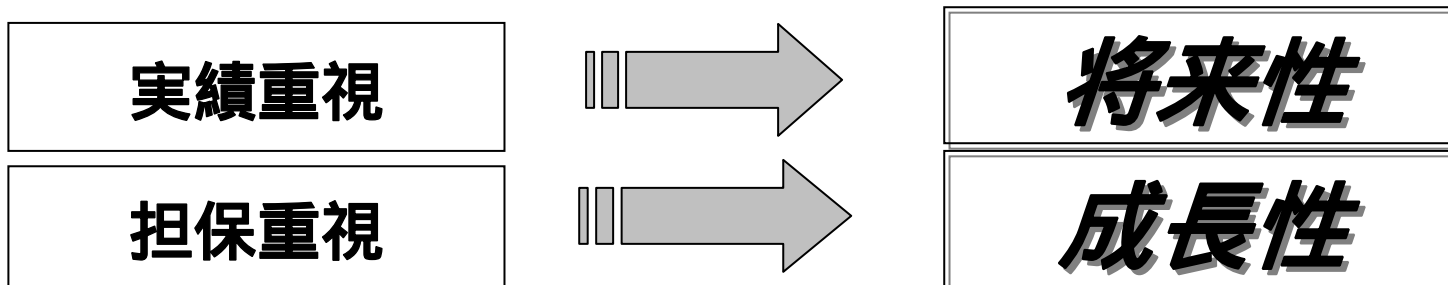
4. 弊行グループの成長企業支援策



(*) 「ベンチャーキャピタル投資」は 弊行関連会社SMBCキャピタル(株)にて所定の審査等がございます。

(*) 「IPO診断」「事業計画作成支援サービス」「知的財産(特許・技術)事業化支援プログラム」は 弊行関連会社SMBCコンサルティング(株)の商品です。

資金調達 「Vファンド」(ベンチャー向け貸出商品)



**新しい「事業評価制度」を構築し、
ベンチャーに成長資金を供給**

Vファンドの特色

「ヒト」:経営能力評価 / 「モノ」:成長性評価 / 「カネ」: 将来の業績予想を組み合わせた新しい形態の融資 モデルの開発
当行独自開発の「技術力・成長性評価手法」の導入 外部提携先(*)を活用し、技術力やビジネスモデルから 成長性を「定量評価」する手法 新たな与信判定手法として「特許」出願 *提携先 (株)日本総合研究所、(株)フレッヂテクノロジー、NPO法人IAIジャパン
将来の業績予想をすることで新規設立先(設立後2年目)の 融資検討が可能に。

商品概要

項目	概要
貸出期間	1～3年
貸出金額	30～200百万円
貸出金利	弊行所定の金利
取扱手数料	315円
返済条件	1年以内:期限一括/約定返済、 1年超:約定返済
保証人・担保	無保証可(金利上乘せあり)・無担保可

新事業創造支援 大学との連携



「大学ライセンス活用プラン」(テクノロジー・ブッシュ型)

大学の研究シーズ(ライセンス)を新ビジネス創出を目指す企業にマッチング。

「技術相談サポートプラン」(マーケットプル型)

企業の新技術・新製品開発における悩みを、大学が協働(共同研究)することで解決。

大学と企業間の「双方向の橋渡し」

産学連携への取り組みを促進

人材確保 弊行グループの総合力を提供

- 外部専門家の提供
(知財事業化支援、事業計画書作成支援、株式公開支援)
- 営業支援
(ビジネスマッチング、営業紹介など)

弊行グループで大学発ベンチャーの個社ごとの
ニーズに応じた成長支援メニューを提供

5.まとめ

➤ 継続的・総合的な支援

～ 創業から出口までの支援～

～ ニーズの変化への対応～

➤ 大学と産業界の仲介

～ 産業界とのシナジーによる価値創造～